

私の班はもともと 3 人の班でした。しかし、途中まで一緒だった千葉君が大会で行けなくなり、班員が自分を含めて 2 人になってしまいました。3 人で考えようと思っていたことや進めていくはずだったことも 2 人で決めていかななくてはならず、とても大変でした。

特に、企業・大学訪問先へのアポ取りは、Apple Japan の電話番号が分からなかったために思うように進まず、他の企業へのアポ取りも考えながらの作業でした。そのため、Apple Japan に送った手紙への返信があった時は本当にうれしかったです。ディレクトフォースプログラムや Apple Japan への訪問でとても面白い話を聞くことができ、また班員と協力して自分たちだけでやり遂げることの意義を見つかることができたので、東京研修に参加して本当によかったと思っています。

ディレクトフォースの基調講演を聞き、確かに義手は、本来の手に近づけるためのものであり、本来の手と同じように肌色になっているというイメージがあると気が付きました。もともとの手に似せて作るのではなく、義手に本来の手以上の機能性やファッション性というオリジナルの価値を加えるという試みは新しいと思いました。義手にどのようなオリジナルの価値を加えるべきなのかはユーザー 1 人 1 人で異なるため、近藤さんがおっしゃったとおり、そのユーザーを主人公としたモノ作りが必要だと思います。

近藤さんは反対意見も多いとおっしゃっていましたが、価値観が 1 つだけだとそれはもはや価値観ではないと思うため、新しい風を吹かせるパイオニアは必ず存在すべきだと思います。私たちが目指すべきはそのパイオニアになることであり、そうなるためには近藤さんのおっしゃったように様々な人や考え、価値観に触れるとともに、それらについて人の意見を聞くのみでなく自分で考え、また考えるだけではなく実行してみるべきだと思います。

東京研修に出発する時点では、ディレクトフォースのグループセッションはあまり重視していませんでしたが、普段聞くことが絶対にできない話を聞くことができたのでよかったです。私たちの班は第 1 クールが村上悠平さん、第 2 クールが矢ヶ崎隆二郎さん、第 3 クールが青木彪さんでした。第 1 クールの村上さんが外務省に勤めていて感じたことは、大切なのは英語力よりも自分が話す内容だということだそうです。英語力は文系・理系にかかわらず必要であり、単語や文法を覚えて使っていくことが大切ではあるのですが、自分の専門性やなせる内容を高め、身につけることの方がより大切だそうです。そのためには、自分の分野やその周囲のことを深く学び、答えのない問題についてもよく考えることが重要だそうです。答えのない問題について考えていったときに分からなくなった場合は、1 度原点に戻り「そもそも論」で考えてみることも必要だと学びました。

第 2 クールの矢ヶ崎さんからは、グローバルビジネスについて聞くことができました。国境を前提としているインターナショナルと国境を前提としないグローバルの違いや

英語を話すときは要点をはっきり言うことが大切だということを知りました。グローバルリーダーになるためには、部下と共通の認識を持つこと、このリーダーはいざというときに責任を取ってくれると理解させることが基本的に必要だと知りました。日本人は和の心を大切にし、以心伝心があったりしますが、外国人が必要としているのははっきりと意思表示をするリーダーで、それになることが今の私たちがすべきことだと思います。矢ヶ崎さんによると、世界地図をさかさまに見てみて視点を変化させること、常に明るく好奇心を持つことで自分の世界を広げることが学生の時にしておくべきことだそうです。将来国際的な人材になるために、1つでも多く実践していきたいと思います。

第3クールの青木さんからは、世界や社会を大海原、自分を小さな船にたとえた話をお聞きしました。学生時代は大海原に船出をするための準備期間であり、その大海原で何が起きているかを知り、それをもとに準備をする必要があるそうです。しかし、大海原で起きていることに振り回されて自分を見失わないように、自立しようとする強い意志、新しいことに柔軟に対応できる力、創造する喜び、他を思う心を育てることが重要だと伺いました。さらに、この4つの力を育てることは、これからの世界に求められる人物像に近づくことでもあるそうです。学生生活でやるべきことは、とにかく一生懸命になること、五感に訴える体験を山ほどすることで現実を直視し受け入れる力を作ること、自分で考える力をつけるために常に「Why」を自問自答し、「How」を創造することだと学びました。また、自立することも重要であり、そのためには自分の意見を持つこと、自分で決定すること、自分で行動すること、結果の責任を自分で負うことが必要だと教えられました。

企業・大学訪問では Apple Japan を訪問しました。インタビューでは広報部長の竹林賢さんとともに、PR マネージャーの佐藤文さんと山口珠紀さんも答えていただきました。Apple には新卒で入社する方はほとんどいないらしく、竹林さんは15年前にヘッドハンティングされた際、当時は Mac と iPod しかありませんでしたが、素晴らしい商品をもっと伝えたいと思い入社を決めたそうです。佐藤さんは10年前にアップルアウトを見て応募し、山口さんは iPhone などが特に示しているわけではないけれど障がい者の方でも使えることを知り、製品力が強いものを広めたいと転職したそうです。製品に対してとても真剣にどうやったら使いやすくなるかを考えていること、働いている人がとても幅広くグローバルであること、個人情報を経営に使うことは決してないことが Apple と他の企業との違いだそうです。また、Apple は世界にとってどのような存在だと考えているか聞いたところ、常にイノベーターであり、社会を SF の世界に近づけるような企業だという答えをいただきました。Apple は何かを再定義する、製品が必ずイノベーションを行っており、また、新しい経験に進化しているにもかかわらず使うこと自体はハードルが低く、気がついたら未来に居るような段差の低い進化を続けているために Apple は進化を続けてきたと考えているそうです。24時間365日、色々に性別・年齢・業者の人に伝えられること、人の役に立つ、すごい人が隅々に居て全員やる気を持っていることがやりがいを感じるのだと伺いまし

た。また、「未来のことは話さない」「今見えているこの世界よりももっといい世界を次に残していこう」というポリシーを聞くことができました。私たちは六本木ヒルズの 40 階でインタビューをさせていただいたのですが、そこは Apple のカフェのようなものになっているらしく、とても開放的な空間でした。そこには飲食物が置かれたカウンターがあったのですが、そこにリンゴがたくさん置いてあったことが印象に残っています。Apple はまさに世界を率いる企業だと思います。そのような企業にインタビューに行くことができ本当にうれしかったです。

1 日目の夜に東大など大学を卒業された方々とのグループセッションでは、常に「What I want to do? And why?」を考えることが必要だと学びました。東大のキャンパス見学であった個別相談会では、東大生の方に大学生になってからの生活や高校との違い、高校生の時にやっておくべきことなどを聞くことができました。

今回の東京研修で得た貴重な体験や、耳にした私がすべきことを 1 つ 1 つ確認しながら、世界から求められるグローバルな人材になるために、良い大学を探すのではなく自分が入った大学をいいものにできるような残り 2 年半となった高校生活を送っていきたいと思います。